

令和2年3月

普及活動報告



獣害対策のDVDを熱心に視聴

～自分たちの手で集落を守ろう～ 美山町で獣害対策研修会が開催

(南丹市：17日)

南丹地域野生鳥獣被害対策チーム※の今年度の重点指導集落の一つである下区で、獣害対策の研修会が開催されました。今回は集落ぐるみの追払いや獣種に応じた侵入防止柵について学びました。また、農事組合長が集落で整備したエアガンやロケット花火発射器について説明され、集落全体でサルの追払いに取り組む気運が高まりました。

獣害対策には集落を挙げての取り組みが欠かせないことから、今回の研修会には女性も参加しました。普及センターは今後も獣害対策の取り組みを支援します。

場 所 南丹市美山町下区
出席者数 11名

※南丹地域野生鳥獣被害対策チーム：地元関係市町、広域振興局及び普及センターの担当者と構成

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年3月

普及活動報告

～今年の賀茂なす生産を前に～JA京都 京野菜部会亀岡支部が作付会議を開催 (亀岡市：17日)



普及センターから栽培のポイントを説明

亀岡市は京のブランド製品の取組み当初から賀茂なすを生産している唯一の産地です。部会活動は大変活発で、目合わせ会は年に10回近く行われ、高品質を維持されています。令和2年産の作付けに当たり、今年最初の研修会が行われ、普及センターからは、定植前に太陽熱で植穴を暖めておくこと、株元に水をかけないこと、葉を焼けさせないトンネル管理や着果促進のホルモン処理などについて説明しました。

会議終了後、部会員でGAP点検表を相互にチェックしました。

場 所 JA京都亀岡中部支店
出席者数 23名



農林センターから台木試験の結果を報告

JA京都亀岡賀茂なす部会員20名

昨年の生産：出荷数量87t（一昨年62t）、金額3,410万円（同3,880万円）

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年3月

普及活動報告

～ビール大麦の安定生産に向けて～ 栽培研修会を開催

(亀岡市：18日)



熱心に説明を聞く生産者



出穂期を迎えたビール麦

亀岡市は府内で唯一、ビールの原料となる大麦を作付しています。その最大の敵は赤かび病という病害で、出穂の15日後に防除できるかがカギとなります。今年は一貫した暖冬で、過去に例がないほど生育が前倒しで進み、出穂期の予測が大変難しい中での研修会となりました。

研修会では、普及センターが事前に把握しておいた各地域の生育状況を説明した後、ほ場において生産者と出穂期の判断方法を確認するとともに、適期防除に努めるよう呼びかけました。

今後も普及センターは需要に応える品質のものづくりを支援します。

場 所 亀岡市馬路町

出席者数 27名

令和2年産栽培予定面積 約93ha (令和元年 95ha)

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年3月

普及活動報告



今後の栽培のポイント等を説明



説明に耳を傾ける生産者

コギクの安定生産に向けて～園部町の コギク生産者が栽培研修会を開催～

(南丹市：24日)

4月中旬のコギクの定植を前に、普及センターから準備や定植時のポイント、その後の管理や病虫害管理等、栽培上注意すべき点について説明しました。JAからは、昨年の販売実績などについて説明がありました。

参加者からは、害虫防除対策や農薬の作用機作に対する質問や意見が出され、栽培に向けた意欲が感じられました。普及センターは、今後も関係機関と連携してコギクの安定生産を支援していきます。

場 所 JA京都園部黒田支店
出席者数 9名

南丹市園部町 令和2年度コギク生産者：8名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年3月

普及活動報告



消毒後のハウス内の様子



土壌くん蒸剤を所定濃度に希釈してかん水処理

～白絹病防除方法の検討～伏見とうがらしで実証ほを設置

(京丹波町：26日)

伏見とうがらし白絹病の発病リスクの高い新設ハウスにおいて、南丹地域特産物育成協議会の実証ほとして、消毒終了後、速やかに苗を定植できる土壌くん蒸剤によるマルチ畦内消毒を実施しました。

昨年、前作とうがらし株の根を残したまま消毒を行う同くん蒸剤の古株枯死処理法による白絹病防除効果を確認した生産者は、既存ハウスでの同処理と併せて微生物資材入り堆肥による土づくりにも意欲的に取り組まれる予定です（定植予定：4月下旬）。

場 所 京丹波町下山
出席者数 5名

令和2年度実証ほ設置規模：計4.5a

京都府南丹農業改良普及センター